

山口県における 2018 年の スギ・ヒノキ花粉飛散のまとめ

[報告 : 山口県医師会常任理事 沖中 芳彦]

前年秋の観察定点におけるスギ雄花の着花状態から、2018 年のスギ花粉飛散総数を、県内測定機関の平均値として、平年値 (2,600 個 /cm² : 直近 10 年間の平均値) をやや下回る 2,200 個 /cm² 程度と予測しました。しかしながら、今シーズンは秋のスギ花粉捕集数が多く、秋の飛散数が多いとシーズン中のスギ総数も多くなるということも言われていることから、飛散数が予測以上になる可能性についても言及致しました (本会報 2018 年 1 月号)。蓋を開けてみますと、花粉飛散総数の実測値は、予測を 25% 上回る、平年並みの 2,760 個 /cm² となりました。

今シーズンは測定機関が大きく入れ替わりました。昨シーズンと比較すると、宇部、山口の計 2

施設が測定を止められ、萩の 1 施設が復活され、柳井の 1 施設が新たに参加されました。図 1 は、測定機関別のスギ花粉飛散総数を平年値とともに示したものです。柳井 1 は今シーズンからの参加のため、平年値のグラフがありません。また、萩は 2010 年以來久しぶりの参加でしたので、平年値は 2010 年以前の同地区他施設も含めた平均値を採用しました。その結果、東部は平年以下、中部は平年以下～平年並み、西部は平年以上、北部は平年並みから多いところでは平年の 3 倍以上の捕集数となりました。北部で平年の 3 倍以上の花粉を捕集した測定機関 (田万川、萩) は、これまでは全測定機関の平均値を下回る花粉数でしたが、本年は全体で 2 番目、3 番目の多さとな

図 1 スギ花粉総数 (2018 年と平年値)

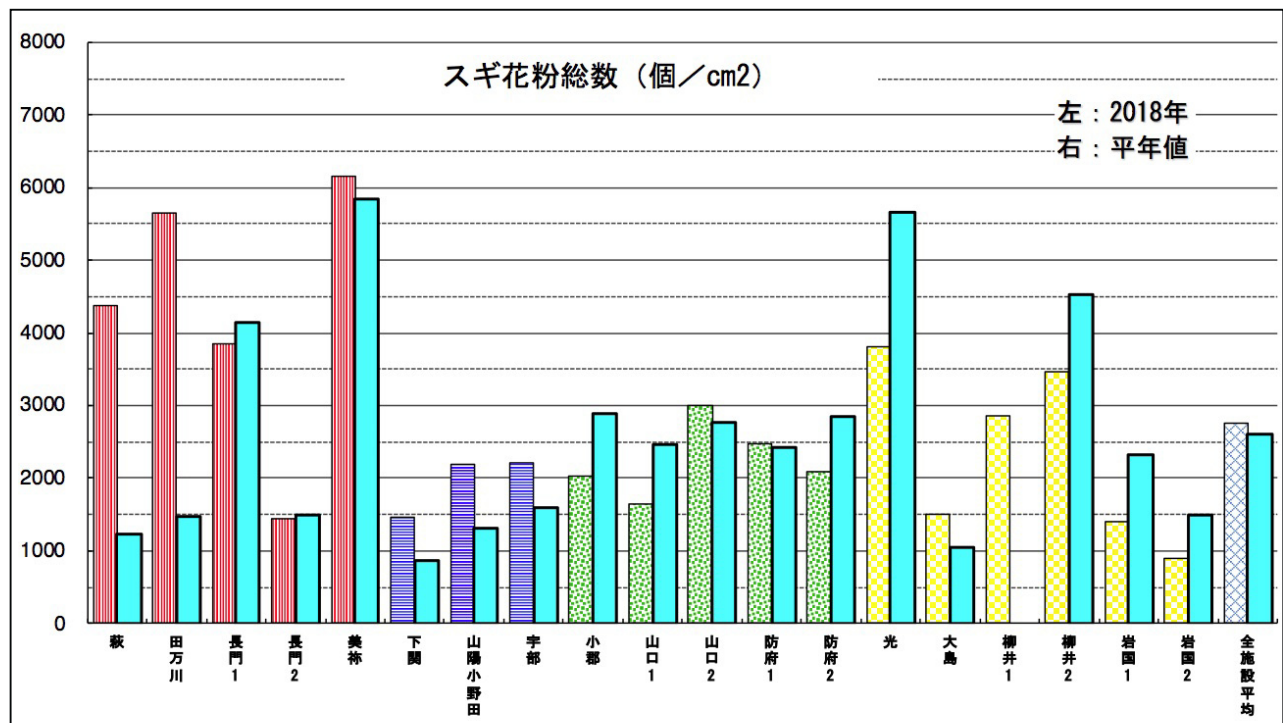


図 2 ヒノキ花粉総数 (2018 年)

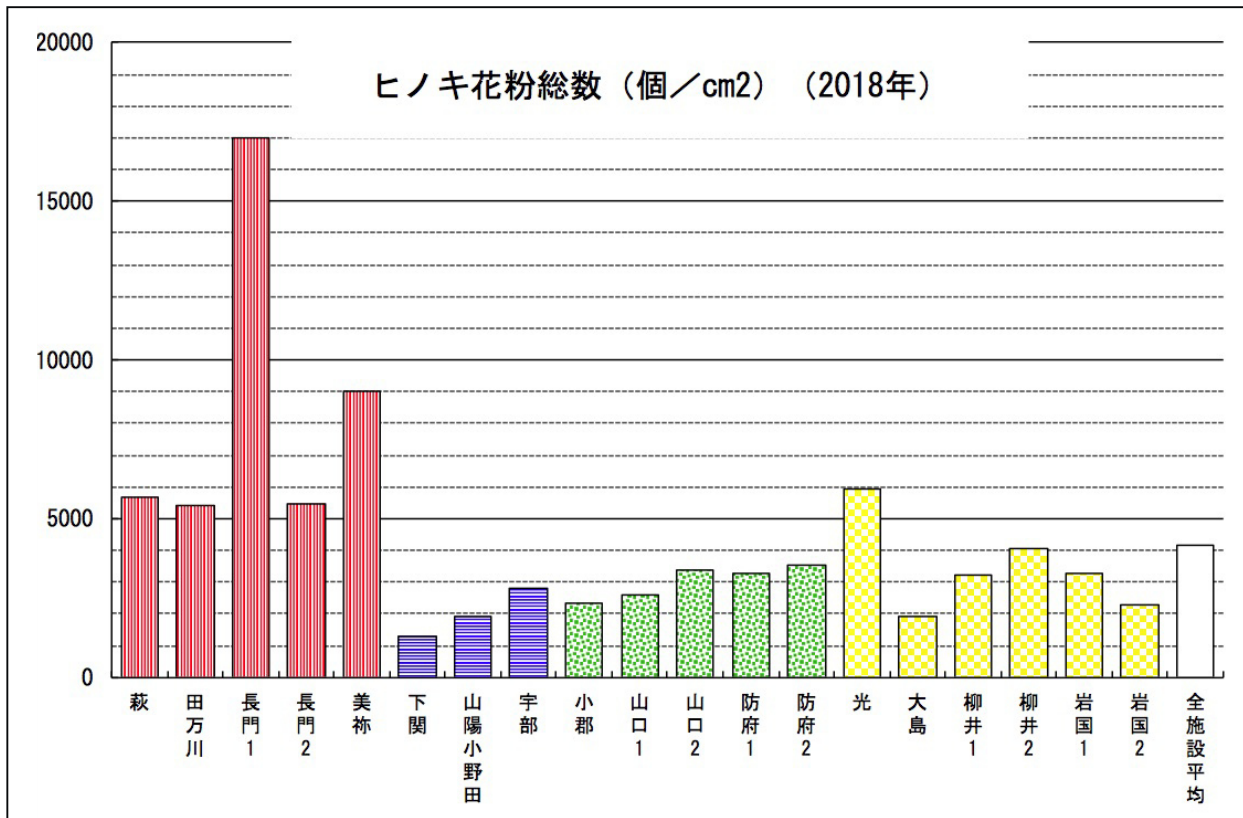
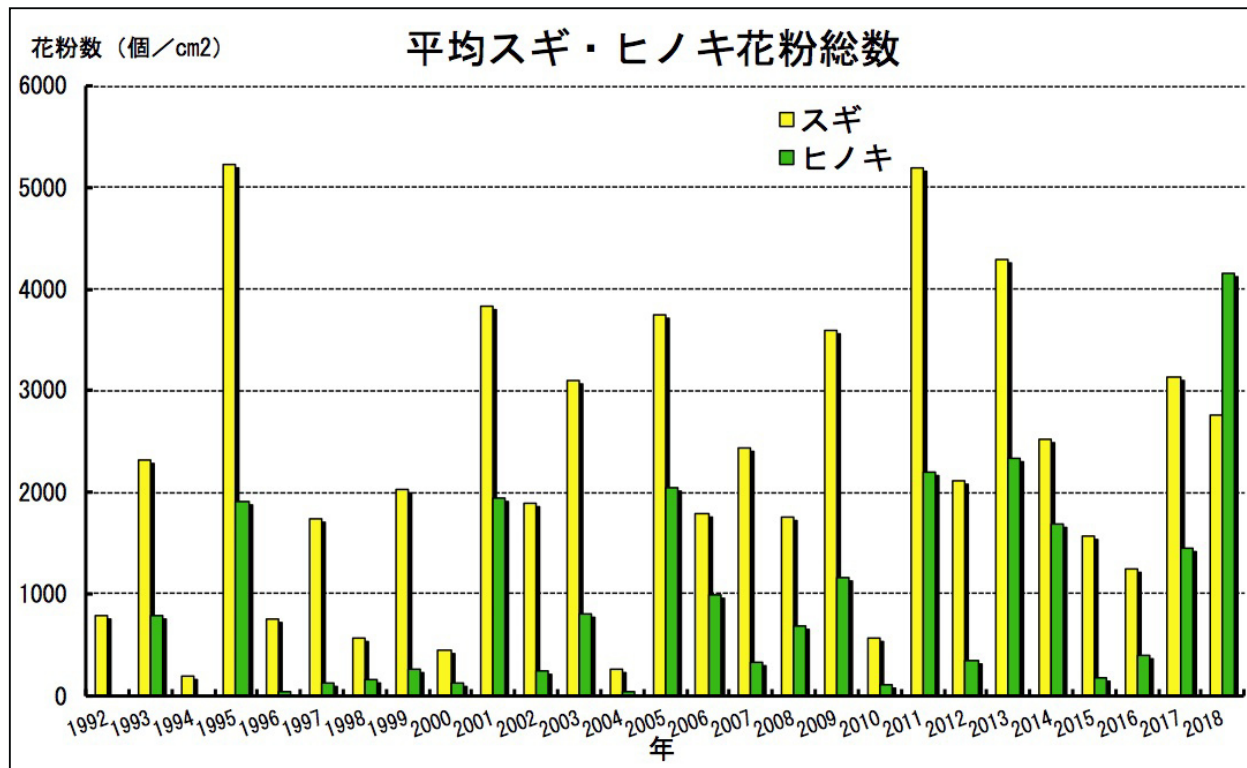


図 3 年別スギ・ヒノキ総数



りました。

今年の冬は、何度も寒波に襲われて積雪に見舞われるなど、気温の低い日が続いたため、スギ花粉飛散開始日は遅めの 2 月 14 日でしたが、飛散開始後は一転して暖かい日が続くようになりました。最多飛散日は 3 月 6 日で、同日の平均スギ花粉数は 525 個/cm^2 でした。同程度 (580 個/cm^2) の最多飛散日花粉数であった 2013 年には $4,300 \text{ 個/cm}^2$ の花粉総数となり、今シーズンよりもかなり多くの花粉が捕集されていました。今シーズンはスギ花粉が比較的短期間に集中して飛散したようです。そのため、総数は昨シーズン ($3,140 \text{ 個/cm}^2$) よりも少なかったのですが、症状は今シーズンの方が重いと感じた方が少なくなかったように思います。

一方、ヒノキに関しましては、今シーズン（昨年秋）の花芽の着きは良好であり、昨シーズン ($1,450 \text{ 個/cm}^2$) と同等かそれ以上の着き具合と思われましたが、実測値はこれまでで最大の飛散総数であった 2013 年の $2,340 \text{ 個/cm}^2$ を大きく上回る $4,150 \text{ 個/cm}^2$ という、想像を絶する大飛散となりました。こちらも北部地区において他の地区を圧倒する数の花粉が飛散しました（図 2）。ちなみに、最多飛散日は、3 月になって暖かい日

が続いた影響で、桜の開花や満開の時期が早くなったのと同様に、3 月 30 日と比較的早くなりました。

結果的に、スギは 2000 年以降で多い方から 8 番目、ヒノキは最大の飛散総数となりました（図 3）。北部地区の一部でスギ花粉捕集数が極端に多くなった理由、並びに北部地区全体でヒノキ花粉が多く捕集された原因に関しましては、現時点では全く考察することができそうにありません。従いまして、今後の予測もますます困難になりそうです。

最後になりますが、測定機関の皆様には、4 か月に及ぶ毎日の花粉測定を誠にありがとうございました。